



本堂前広場に咲いた直径10mの桜の花は圧巻。桜色の円筒がキャンドルの炎でゆらめく様子は、命ある花がそよ風にゆれているかのようでした。

峯みねのたより

私たちのお寺、長泉寺の会報誌。

新装刊

005号

2009年10月16日発行

〒981-1505
宮城県角田市角田字長泉寺69番地
電話 0224 (62) 1004
FAX 0224 (63) 0063
<http://www1.odn.ne.jp/chosenji/>

曹洞宗 長泉寺
六国峯

国際環境規格ISO-14001認証取得のお寺

地球環境への思いを灯してご先祖様をお迎えしたお盆の夜、長泉寺に幻想的な空間が創造されました。



キャンドルに浮かび上がる参道が、非日常の世界へいざないます。

静かなお盆入りの夜、鐘楼から鐘の音がひとつ響き渡ると、闇に包まれていた境内が一瞬にして幻想的な光の空間へと生まれ変わりました。

八月十三日午後八時〜十時、長泉寺で「お盆のキャンドルナイト」が行われました。このイベントは、迎え火を灯してご先祖様をお迎えする機会に「電気照明を消してロウソクの炎を見つめ、地球環境について共に考えましょう」と提案するもので、昨年に続き第二回目の開催となります。

宗門や宗派を超え、広く市民へ向けたイベントとして檀信徒および幼稚園保護者会の皆様が奉仕者となり準備を行った会場には、約九〇〇個のキャンドルが灯りました。手作りの青竹キャンドルに桜色の円筒をかぶせて並べた

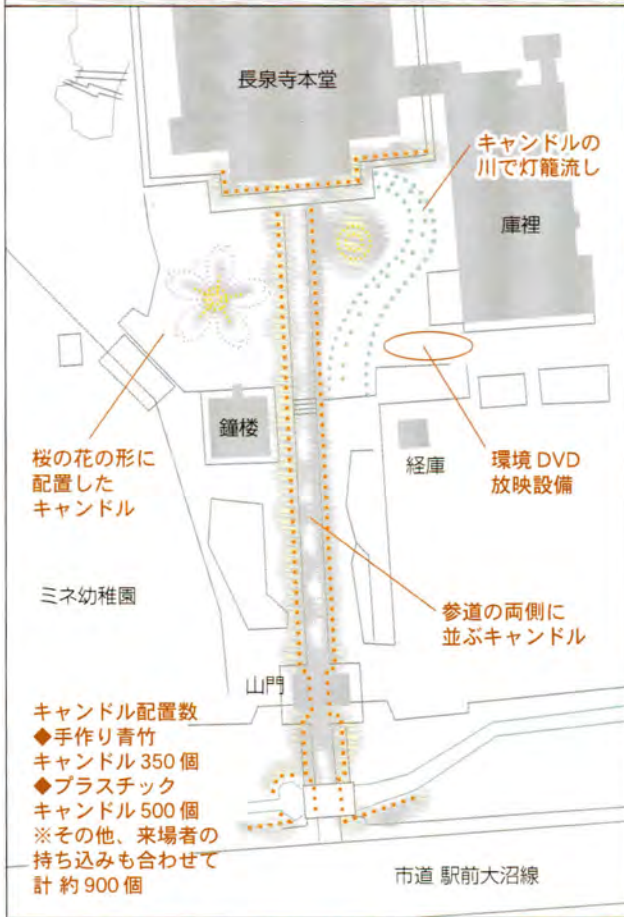


青い光の川に流れる灯籠。奥に見えるのは環境DVD放映の画面です。

「桜の花」や、青色の円筒をかぶせて川の形に並べ、灯籠流しをイメージした「長い川」など、色と形の演出も豊かな光のアートが多く参加者を魅了しました。環境保護の観点から、近年は河川での灯籠流しは許可されにくくなっています。ロウソクの川に浮かぶ灯籠を心静かに見つめる人々の様子は、信仰とエコ思想をひとつにする「お盆のキャンドルナイト」の意義をあらためて感じさせる光景でした。

夢の世界にいるような夜でしたが、決して地球環境の現実から目を背けていたわけではありません。会場の一角に設けたDVD放映コーナーでは、環境ドキュメンタリー映像「水の惑星地球にいま何が起きているか」を放映し、

キャンドルのレイアウトマップ



「お盆のキャンドルナイト」は、KHB東日本放送や河北新報（8月21日付）で報道されました。
 ※上の写真はKHB「スーパーJチャンネルみやぎ」（8月14日放送）の映像より

地球温暖化のメカニズムや減少し続ける氷河、森林破壊の実状などを学ぶことができました。キャンドルの炎が創り出す美しい光景の中で見る厳しい現実。その対比により、鑑賞された皆様の心には、環境への意識がいつにも増して高まったことと思います。

一夜のエコ体験を通して地球や生命について考えるイベントが、地域の恒例行事として定着し、もっと多くの人々に広まっていくように、長泉寺はこれからもキャンドルナイトを続けてまいります。また、お盆だけでなく昨年同様に大晦日のキャンドルナイトも恒例化したいと考えていますので、今年末にもぜひご参加ください。



園児たちのいきいきとしたエネルギーが伝わり、手にした人が元気になれるプレゼントでした。

宮城県庁環境政策部よりご提供いただいた無地のエコバッグに、さくら組・きく組の園児たちが思い思いの絵を描き、カラフルで可愛いオリジナルエコバッグを作りました。

そして昨年の十二月十七日、毎年慰問活動をしている特別養護老人ホーム「みどり荘」を訪問し、ホームの皆様にもエコバッグをプレゼント。おじいちゃん、おばあちゃんに「ありがとう」

買ったの時に使うからね」ととても喜んでいただき、園児たちは自分の手で作ったものが生活の役に立つことを実感できたようです。

また、一緒に暮らすおじいちゃん、おばあちゃんがいる園児は、家庭でもプレゼントを手渡しました。



想像力豊かな子どもの世界が、無地のバッグを特別なものにします。

ミネ幼稚園の園児たちもみんな楽しく環境学習と奉仕活動に取り組んでいます。

オリジナルカードを配布して 「地球温暖化防止」の呼びかけ

すみれ組の園児たちは昨年六月十二日、「地球温暖化防止」の呼びかけ活動を行いました。

「みんなであらそうCO2」と書かれた手作りカードを準備してヨークベニマル角田店の入口に整列した園児たちが、買い物に訪れた方々に「よろしくお願いします」と手渡し。初めは緊張して渡していた子も、受け取ってくださる方の笑顔に励まされ、一枚残らず配布することができました。

その日は園児たちと共に角田市役所職員の皆様が「だめつつちゃ温暖化」キャンペーンのティッシュを配布し、「ま



みんなで力を合わせて、カードを全部きちんと配りきることができました。

と一緒にやろうね」と約束してくださいました。きつと実現し、長く続ける活動にしていきたいと思えます。

毎年恒例のおそうじ奉仕活動

「親子クリーン作戦」を実施

ミネ幼稚園は毎年、角田市内各地のゴミ拾い活動を行っています。今回の記事では、昨年六月十三日に実施した「親子クリーン作戦」を例に、その活動内容をご紹介します。

作戦の主役となったのは年長組の園児たちと保護者の皆様です。女子園児のチームが幼稚園から角田駅前までの歩道を、男子園児チームが台山公園を担当しました。

駅前コースには、ペットボトルやビニール袋、紙くずなどがたくさん落ちており、園児たちはしゃがみ込んで丁寧に拾いました。なかでも多かったゴミはタバコの吸い殻。大人たちがポイ捨てしたタバコを子どもたちが拾い集める姿を見れば、誰でも心が痛みます。そうした悲しい光景をなくすために、



カードにはイラスト付きで温暖化防止のメッセージが書いてあります。

公共心の向上を呼びかけ続ける必要を感じました。

台山公園コースでは、芝生の中に隠れたゴミがたくさんあるのを、園児たちが頑張っで見つけ出していました。

公園管理の仕事をされている方にもお話を聞き、普段から綺麗な環境づくりのために働く人がいることを知って園児たちはとても勉強になったようです。幼稚園に戻ってからは拾ったゴミの分別です。ゴミの種類と分け方について先生たちに教わり、園児たちは楽しみながら熱心に分別を行いました。



「ゴミってこんなに落ちているんだね」と身近な環境について学びつつ、熱心にゴミを拾いました。

地球環境のために私たちができることは、毎日の暮らしの中にもたくさんあります。

寺院として日本で初めて環境マネジメントの国際規格「ISO14001」の認証を取得した長泉寺では、今号で紹介した「お盆のキャンドルナイト」以外にもさまざまな環境対策を実践しています。ミネ幼稚園でも上記の環境奉仕活動のほか、たとえば運動会の賞品にエコグッズを採用するなどいろいろと工夫して取り組んでいます。ひとつひとつの活動は、大きな地球に対して影響の小さなことかもしれませんが、しかし、そうした草の根的なおこないが広がっていけば、いつかは地球規模の効果になると信じています。

皆さんは、特集記事をお読みになってどんな感想を持たれたでしょうか。環境をまもるために大切なのは、まず「気付く」ことです。そして小さなことから「実践」することです。電気のスイッチをこまめに消したり、エコバッグを使って資源の無駄づかいを減らしたり、禁煙を始めてみたり、毎日の暮らしの中にもできることはたくさんあります。今号の特集が皆さんのエコ活動のきっかけとなれば幸いです。

お人形・ぬいぐるみを「供養し お焚き上げを執り行いました」

大切な人形やぬいぐるみでも、やがては手放す時が訪れます。しかし、思い出がたつぶりしみ込んだ存在は簡単には捨てがたいもの。そんな人形たちのためにある祭礼が人形供養です。

八月十七日に「やすらぎホールあぶくま」で開催された「お人形・ぬいぐるみ供養祭」では、地域の家庭から寄せられた人形やぬいぐるみが祭壇に飾られ、大勢の子どもたちや保護者が見守る中、長泉寺住職によって供養が行われました。列席者の感謝の気持ちに包まれながら供養された人形たちは、同月三十一日に長泉寺で安らかにお焚き上げされました。



供養祭の会場では、あわせて「ペット供養」もおこなわれました。

お寺に楽しい笑い声が響いた 落語協会の「東北寄席公演」

七月二十七日、長泉寺大書院に高座が設けられ、落語会が開催されました。

これは社団法人落語協会による「東北寄席公演」という催しで、江戸の粋な文化を東北各地へ伝えようという本格的な落語会です。演目は真打ちの柳家喬太郎師匠、入船亭扇辰師匠、二つ目の入船亭遊一さんによる落語のほか、林家二楽さんの紙切り、三増紋之助さんの江戸曲独楽、松尾あささんの寄席ばやし実演（解説・喬太郎師匠）という、とても豪華なものでした。

人が集い、文化の発信地となるお寺のあり方をめざし、長泉寺は今後もさまざまな催しを企画していきます。



観客のリクエストにも応えて見事な紙切りを披露する林家二楽さん。

曹洞宗 Q&A

前号から始まったこのコーナーでは、曹洞宗や仏教について「今さら聞けない」基礎知識や「知って楽しい」豆知識を、わかりやすく紹介していきます。

【Q】家中で仏壇を安置する場所には何か決まりはあるのですか？

【A】正面を南向きにするという説や西方浄土に向かつて礼拝するよう東向きにする説、あるいは宗派の本山に向かつて礼拝できる方角にする説など、さまざまな説がありますが、曹洞宗では特別な決まりはありません。「神棚と向かい合わせにしない」「低すぎず高すぎない場所」「静かで落ちついた場所」などを目安に、住宅事情に合わせて無理なく安置しましょう。

【Q】恥ずかしながら、いつも見よう見まねでお焼香をしています。正しいお焼香の方法を教えてください。

【A】曹洞宗ではお焼香を二回するのが正式です。一回目は「主香」、二回目は主香を補う目的の「従香」といいます。人差し指と中指と親指でお香をつまみ、主香は額の前にかざしてから香炉へ落とし、従香はつまんでそのまま香炉へ落とし、良いとされています。また、お線香の本数で迷う方もいますが、お線香は一本立てるのが正式です。

【Q】般若心経の写経を始めたいと考えています。具体的な方法を教えてください。

【A】まず経文の書かれた台紙と写経用紙をご用意ください。市販もされていますし、長泉寺でも購入できます。台紙の上に写経用紙を一枚のせて、透けて見える経文をなぞるように書くので、初めての方でも難しくはありません。用紙の「有為」と書かれた欄には法名またはお願ひ事、「写経願主」と書かれた欄には氏名、その隣の欄に年月日を記入して、あとは心静かに浄書すれば良いのです。また、写経された用紙は長泉寺にご持参ください。御真前にお供えして読経後、本堂前の写経塚に奉納させていただきます。

皆さんからのご質問をお待ちしています。曹洞宗に関するご質問、仏教全般に関わるご質問、長泉寺についてのご質問など、何でも気軽に御訊ねください。



「巳正月」供養のご案内

本年中にご家族が亡くなられた場合、明年のお正月は喪中となり、一般的にはお迎えができないとされています。

しかしながら、瀬戸内地方では十二月最初の巳の日にお寺に集い供養して、一回喪中の正月を家族で過ごしたことにし、明年のお正月は世間通りに皆で祝うという考えが古く中世頃からあり、現在でも行われています。

これは、亡くなった方への思いやりと、新年こそは不幸のない幸福な一年でありますようにとの願いから始まったことと考えられています。

そこで長泉寺では、「本年中にご葬儀をされ、百か日を過ぎされた方々」にお集まりいただき、左記日程にて巳正月供養を行い、「巳正月祈願お札」ご仏前にお供えするお餅」を差し上げたいと思います。

どうぞお参りいただき、新年を清々しい心でお迎えくださるよう、ご案内申し上げます。

◆日時／平成二十一年十二月六日（日）午前一〇時より長泉寺本堂にて

◆供養料／一家族…三〇〇〇円

※本年は十二月二日（水）が十二月最初の巳の日ですが、皆様のお集まりやすい六日（日）としました。

「峯のたより」推薦図書

『ZEN 道元の生き方』 『正法眼蔵随聞記』から 角田泰隆・著

本書は、平成二〇年四月より二十一年三月までの一年間、一二回にわたってNHK教育テレビ「こころの時代」宗教・人生」で放送された「道元のことば」『正法眼蔵随聞記』にきく」のガイドブック上・下巻に加筆し一冊にまとめたもの。著者の角田氏は駒澤大学教授で長野県伊那市常圓寺住職を勤める五十二歳。私も親しくさせていただいている、温厚かつ真摯な求道の禅者である。当代きつての売れっ子・道元学者と言っても過言ではない。

『正法眼蔵随聞記』とは、文字通り、永平寺開祖・道元禅師のことばを弟子の懐契禅師（永平寺第二祖）が聞くに随って書き記したものだ。道元禅師の自筆本ではないから思想的資料としては二次資料であるが、そこには仏法の真髓や仏道修行のあり方、修行の上での心得などが平易な文章で示されており、かえって私たち参学者にとっては分かりやすい。

（二人一人皆、仏の道を得ることは、一緒に修行する者たちの縁による。一人一人皆、もともと能力をもっているけれども、仏の道を実践することは、

一緒に修行する者たちの力によってできるのであるから、今は皆が心一つにして道を参じ究め、尋ねもとめるべきである。玉（宝石）は磨くことによつて器（立派な器物）となる。人間は鍛えることによつて仁（徳を具えた人間）となる。初めから光つている宝石があるだろうか。初心のときから優れている人間がいるだろうか。必ず磨かなければならない。必ず練らなければならぬ、自ら卑下して修行を緩くしてはならない。（二三八頁より抜粋）

ともに学ぶ仲間、教えに従う正しい師（先生）、それを信じて切磋琢磨することなど、身につまされる教えが説かれていく。どうぞ、ご一読下さい。

【推薦・長泉寺住職】

や新聞などのマスコミで多く取り上げられ、市民の間でも議論を巻き起こし、武田氏に対して様々な評価が与えられた。本書は、それらの主張に対して問題意識を持った市民有志が企画したシンポジウムにおける、武田氏と一三人のパネリストによる激論を収録。「リサイクル」「温暖化」「ダイオキシン」の三つのテーマに、環境問題の真実が徐々に明らかになる。（本書巻末の紹介文より一部省略して抜粋）

今や環境問題対策は待たなしの時期を迎えています。両著者は従来の環境に関する「知識、常識、学説等」を真つ向から否定してきます。

しかし環境問題対策は世界中の急を要する最大関心事であり、グローバルに取り組まなければならない重要な課題です。ご一読されて正しい知識を身につけ、鳩山総理大臣が今回世界に約束した二五%削減に対し協力することは、日本国民としての責務であると思えますがいかがでしょうか。

【推薦・長泉寺環境管理責任者】



発行：NHK 出版
定価：本体 1,300 円＋税

『武田邦彦はウソをついているのか？』 本人の環境問題の常識を覆す熱闘論』 武田邦彦／杉本裕明・編著

「環境問題のウソ」リサイクルは偽善」と著書で記し、日本中に衝撃を与えた武田邦彦教授。その主張はテレビ



発行：PHP 研究所
定価：本体 952 円＋税

皆様にご心より感謝いたします。

長泉寺本堂落慶の際には皆様から多くのお祝い・お供えを賜りました。感謝を込めて本誌に御芳名を記載します。

■本堂落慶祝として 金一封

東仲町 鎌田 稔 様
その他、たくさんの皆様

■本堂落慶祝として 供物

盛岡市 鈴木 俊輔 様
盛岡市 齋藤 いさ子 様
塩竈市 保志 可也 様
その他、たくさんの皆様

■法隆寺古材・経文函

栃木県 鶴工舎 様
三千年檜・飾台(二基)

■唐招提寺復元鴟尾瓦

奈良市 小川 三夫 様
奈良市 山本瓦工業 様

■檜輪切原木(直径二メートル二基)

奈良市 佐藤木材 様
タイムカプセル用・丸森石器

■扁額(三) 塗替工事一式奉仕

高倉 山田石販 様
湯沢市 根元泰蔵商店 様

■業務用大型冷蔵庫

仙台市 花の膳 様
本檜製大型火鉢

■新丁 百々 文男 様

東京都 高橋 アキラ 様
自筆書(三幅)

■瑞応寺 檀崎 通元 様

檀崎 通元 様
檀崎一光老師(染筆書)(二幅)

■弥勒寺 齋藤 芳寛 様

■自筆書『普回向』(大幅・一)

札幌市 姫野 美弥子 様
仏具(大型祠堂位牌・二基)

■本ケヤキ製大型賽銭箱

佐倉 かねこ 様
大町 ほこだて仏光堂 様

■三上正寿画『野ほとけ』(八〇号)

仙台市 般若堂 様
自筆油絵『セーヌ湖畔』(四〇号)

■岩波書店『夏目漱石全集』他

パリ在住 丹野 清悟 様
須賀東室『十一面観世音菩薩立像』他

■四〇世説宗筆『観音経』掛軸

宇都宮市 神尾 佳代子 様
西根 匿名 様

■『昭和史の天皇』全集 他

栄町 西塚 良雄 様
自筆本『続 せせらぎ』

■自筆歌集『れんげう』

笠島 佐藤 清吉 様
盛岡市 齋藤 いさ子 様

■自筆本『国にありて我あり』

裏町 岩間 弘 様
自筆本『小説「坊っちゃん」誕生秘話』

■上越市 勝山 一義 様

橋本徳壽・歌会始召歌自筆書
東京都 橋本 蒼生 様

■加茂季鷹・自筆狂歌書(一)

仙台市 小林 嵩 様
先祖供養料として 金一封

■寺前 井上 孝一 様

新丁 草間 俊男 様
盛岡市 鈴木 俊輔 様

■北町 油井 秀夫 様

東京都 鈴木 道也 様

■大河原町 水野 文子 様

東田町 佐藤 信一 様
佐倉 安達 けい 様

■石巻市 沼崎 栄子 様

宇都宮市 神尾 佳代子 様
川口市 廣西 英紀 様

■梶賀 荒川 米 様

西田町 石井 芳巳 様
その他、たくさんの皆様

■本堂用座椅子(二十脚)

毛萱 日下 みつ子 様
お地藏さん着物(春秋彼岸)

■裏町 渡辺 みや子 様

野田 乙葉 みよし 様
お盆、春秋彼岸に供物たくさん

■新丁 加藤 会館 様

館矢間 菊地 功 様
木炭たくさん

■君萱 今野 良二 様

老ヶ崎 松崎 ときわ 様
野菜たくさん

■大島 渡辺 恒雄 様

立町 渡辺 陞二 様
小田 齋藤 徳衛 様

■館矢間 半沢 廉治 様

館矢間 半沢 一良 様
館矢間 菊地 康平 様

■その他、たくさんの皆様

稲置 松浦 吉市 様
稲置 吾妻 敏男 様

■毛萱 佐藤 義衛 様

毛萱 佐藤 正寿 様
北郷 面川 義二 様

■東京都 山中 君江 様

西根 匿名 様
トマトたくさん

■豊室 仙石 一馬 様

笠島 佐藤 信雄 様
ナシたくさん

■老ヶ崎 松崎 安典 様

老ヶ崎 北沼 一男 様
供養物たくさん

■笠島 佐藤 節男 様

西花島 泉 正雄 様
盛岡市 鈴木 俊輔 様

■盛岡市 齋藤 いさ子 様

石巻市 佐久間 次男 様
石巻市 生出 秀子 様

■多賀城市 大槻 祐弘 様

塩竈市 大槻 正人 様
栄町 会田 元男 様

■大河原町 水野 文子 様

立町 渡辺 喬子 様
西田町 細川 しめ 様

■西田町 郷家 貞男 様

裏町 市場 真吉 様
館矢間 菊地 清明 様

■お茶たくさん

天神町 渡辺 てる子 様
横田町 浅野 うめ 様

■藤枝町 村岡 眞實 様

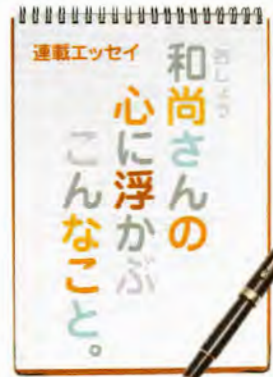
西仲町 小野茶店 様
西田町 玉手茶舗 様

■生花たくさん

横倉 高橋花店 様
西田町 花のおおとも 様

■梶賀 荒川 米 様

※順不同



長泉寺住職
奥野 成賢

谷田の日本一きびだんご

急用ができて三泊四日(うちフェリ
ーに一泊)で北海道に出かけてきた。
ある用件で、美瑛町と旭川市にお住ま
いのお二人にお会いしたのである。だ
から旅といっても観光目的ではないが、
出かけた証拠に何かお土産を求めろ
が世の習わし。ジャガイモにトウモロ
コシでは芸がないので、何か洒落たモ
ノがないかと思案していたら、それな
らば「谷田の日本一きびだんご」が良
いと同行者に勧められた。

同行者のAさんは旅なれている方、
ならばと勧められるままに一個を試食。
うくん、素朴なゆべし味がしてこれが
何ともうまい! 値段も一個が一二六
円(税込)とはありがたい。しかも雉
、犬を従えた桃太郎の包装紙をよく
見れば、ナ、ナント、わが角田市と姉
妹都市の栗山町のお菓子ではないか!
ではと迷うことなく二十個入り一箱の
品を三箱購入し、帰りの車内では、「谷
田の日本一きびだんご」の更に詳しい

由来について、Aさんより密かにレク
チャーを受けたのであります。

さてわが家に帰り、早速「谷田の日
本一きびだんご」の登場と相成ったの
であるが、意気揚々としている私を尻
目に、家族の眼は想像していた通りや
はり冷たいものがあつた。曰く、きび
だんごの本場は岡山じゃないの? こ
の絵と同じきびだんごはこの菓子屋
でも売っている! 北海道なら他のお
菓子があろう! と、まあさんざ
んに言われて評価が低い。では、ま
あ一口食べてみて下さいと私はすっ
かりきびだんごのセールスマン。そ
で、明治期に泉麟太郎氏を先頭に角田
から栗山に開拓移民^{【※注】}した話、「谷
田の日本一きびだんご」は大正十二年
に、北海道開拓の精神を織り込み「起
備団合」の名称で発売されたことなど
を話し聞かせた。(なお本品は道内では
どこでも買える有名品、本州のは類
似品です)

食べたらず味ももちろんおいしい、お
坊さんたちの人数も多い、お客さんにも
勧められて、結局、誰もがすすんで手
を伸ばし、買って帰った数は一週間であ
りなくなつた。きびだんごはなくなつた
が、食べるたびに、北海道栗山の原野
を冬の厳しさや野獣の恐怖に耐え、苦
勞しながらも開墾^{【※注】}する私たち角田の祖

先の姿が心の中にぼう々と浮かび上
り、角田の地を離れたとはいえ、開拓
者との縁の中で自分も生きている不思
議さだけが後味として残つた。

この品を紹介してくれたAさんに心
から感謝し、「谷田の日本一きびだんご」
は、格別に日本一のきびだんごである
と思つた。

【※注】明治三年(一八七〇)三月、石川邦光家中
の泉麟太郎など、女二人、子ども二人を含む四十
一人が北海道入植のため角田を出発した。



谷田製菓の「日本一きびだんご」

白楽天の詩——ご挨拶に代えて

九月十九日から二十三日までの五連
休、誰が名付けたかシルバークワイーク
と言うらしい。上手いネーミングだな
あと感服している。春のゴールドデンウ
イークに対応して秋のシルバークワイ
ークと言うのでしょかと家内に訊かれ
たが、私にもわからない。連休期間中
に敬老の日もあるからではないかと暖
味な返事をしてその場をにげた。

ともあれ、この連休は秋分の日を除
き晴天に恵まれ、刈り取られた稲田の
面積はみるみると広がりを見せ、稲穂
で埋まった田圃の空間が明るくなるに

つれ、作業をする農家の人達の表情も
活き活きとし、今年の収量も品質も良
かったことを示しているようでした。

長寿を重ねた先達に慶祝し、亡き祖
先の靈に報恩のまことを捧げ、実りの
豊作に感謝する、まさにお彼岸フェス
ティバルと呼ぶにふさわしい、この上
ないよろこびのウイークでした。

檀信徒の皆様には遠路よりお越しい
ただきありがとうございます。

過般、中国の詩人・白楽天のことに
ついて書きましたが、「人生七十、古
来稀なり」(杜甫の句)と言われた当時、
七十五歳の長寿をまつとうし、官僚と
しても大臣クラスまで出世し、三千数
百首の詩を残したその生涯は、唐の詩
人の中でも珍しく幸福な人生であつた
と言われています。

白楽天、七十一歳の年、彼は『達な
るかな楽天行』を作り、信仰生活を深
める晩年を歩み出しました。

死生は 可も無く 不可も無し
達なるかな 達なるかな 白楽天

九月二十六日より十月三十一日まで、
岡山県矢掛町・洞松寺専門僧堂に出か
け、留守となります。よろしくお願
いいたします。

檀信徒皆様方のご健康とご繁栄をこ
ころよりお祈り申し上げます。